





2022年度 新入生へのメッセージ

特集 ようこそ法政へ

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。



廣瀬克哉総長は告辞で、「状況にただ流されるのではなく、それぞれが自分ごととして考えた上で行う選択の集積として、よりよい未来を創ってきたい」と卒業生に語りかけた



※撮影時のみマスクを外しています

第140回学位授与式

3月24日(木)日本武道館

3月24日(木)、第140回学位授与式が日本武道館(千代田区北の丸公園)で行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典の参加は卒業生のみとなりましたが、桜の花が咲き始めた北の丸公園内には、午前の部、午後の部合わせて約5500人の参加者が集いました。

【司会】



午前・午後とも司会を務めた卒業生の平野康太郎さん(社会学部・左)と古賀ひかるさん(社会学部・右)

【午後の部】



卒業生を代表し答辞を述べる俣野夏希さん(キャリアデザイン学部)

【午前の部】



卒業生を代表し答辞を述べる初海渚さん(理工学部)

HOSEI 4 Contents

communication magazine 2022

- 02 HOSEI EYE 第140回学位授与式 3月24日(木)日本武道館
- 03 特集 ようこそ法政へ 2022年度新入生へのメッセージ
- 04 巻頭言 法政大学総長 廣瀬克哉
「ポストコロナの大学生活をともに創って行きましょう」
- 06 15の学部長から新入生のあなたへ
法学部長：榎川泰史／文学部長：安東祐希／経済学部長：廣川みどり／社会学部長：宇野齊／経営学部長：金容度／国際文化学部長：松本信／人間環境学部長：武貞稔彦／現代福祉学部長：服部環／キャリアデザイン学部長：荒川裕子／GIS(グローバル教養学部)長：新谷優／スポーツ健康学部長：鬼頭英明／情報科学部長：藤田悟／デザイン工学部長：福井恒明／理工学部長：伊藤一之／生命科学部長：廣野雅文
- 11 国内大学への交流学生制度
- 12 卒業生インタビュー
「中古農機のリユースビジネスを拡大し、農家、会社、社会に貢献したい」株式会社マーケットエンタープライズ プラットフォームチームマネージャー兼株式会社UMM取締役 伊藤 香純さん
- 14 ESSAY
「スポーツを取り巻く現状～スポーツ傷害とその予防への取り組み～」スポーツ健康学部スポーツ健康学科 教授 瀬戸 宏明
- 16 HOSEI PHRONESIS
「社会心理学の観点から、集団間の対立関係を解きほぐす」キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 熊谷 智博

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
理工学部電気電子工学科 ナノ・マイクロシステム工学研究室(笠原崇史准教授研究室)／アカベラサークル「はもるぷり」
- 20 Message 「命のかぎり、充実した学生生活を」法学部政治学科4年 柴山 直也さん(法政大学応援団第97代団長)
- 21 THE SCENE VOL.135 陸上競技部
- 22 後援会だより「新入生保護者の皆さまへ」ほか
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.025
「沖縄を知り、考え、つながる 法政大学沖縄文化研究所 創立50周年記念展示」
- 27 校友会だより
- 28 HOSEI TOPICS
- 30 2021年度自由を生き抜く実践知大賞1
- 31 BOOKS

COVER 多摩キャンパス 撮影：神谷 渚

現代福祉学部棟は地上4階建ての建物で、教室、ゼミ室の他に臨床心理に関する施設、ボランティア体験や福祉現場での実習をスムーズに行うための実習指導室があります。建物の前には平坦なスペースが設けられていて、ベンチで休んだりキャッチボールをしたりと思いいに過ごすことができる場所になっています。

巻頭言

法政大学総長 廣瀬克哉

ポストコロナの 大学生活を ともに創って行きましょう

Hirose Katsuya

1958年生まれ。法学部教授。1981年東京大学法学部卒業、1983年同大学院法学政治学研究所修士課程修了、1987年同大学院同研究科博士課程単位取得退学、同年法学博士学位取得。同年法政大学法学部助教授、1995年同法学部教授。2008～2011年度総合情報センター所長、2012～2013年度法学部長等歴任。2012年度～学校法人法政大学評議員、2014～2020年度学校法人法政大学常務理事、2017～2020年度法政大学副学長、2021年度～法政大学総長。

皆さん、法政大学への入学おめでとうございます。

2022年度は、コロナ禍のなかの入学も3年目となりました。今春高等学校を卒業した人は、高校生活の半分以上を平常時とは違った形で過ごしてきた学年です。思い描いていたような高校生活を存分に送ることができた人はほとんどいないのではないかと思います。また、第6波の最中での入学試験など、大学進学の日も、いろいろと心配事の絶えない状況だったことと思います。それを乗り越えて大学に入学する機会を獲得された皆さんに敬意をいだきつつ、心から歓迎したいと思います。

感染防止に留意しつづける必要は、残念ながらまだまだ暫く続きそうです。し

かし、コロナ下での経験も一定の蓄積となり、ある程度のが分かっています。感染拡大のリスクが、大学のさまざまな活動の中の、どこにあるのか。どういう注意を払っていれば、活動を通して感染が拡大することを防ぐことが出来るのか。100パーセントか0パーセントではなく、何10パーセントかの活動を注意深く行いながら、感染を防いでいくことも可能だということが分かってきました。授業や課外活動についても、学内外でのさまざまな交流や共同して行う活動についても、全面的に自粛してしまうのではなく、工夫しながら注意深く実施していくこととなります。

コロナ前までは、特に意識することもなく、「自然に」活動することがで

きたことが、過去2年間は、時として全面的な自粛だったり、あるいは、とても不本意な制約を受けた形でしか行えなかったこともありました。これからも、活動のあり方については、いつも「どのようになら実現できるだろうか」ということを意識しながら工夫していくことが求められます。そのため

たちを鍛えてくれるはずですが、制約にただ圧倒されてしまうのではなく、その中でも何とか自分のめざすものを実現しようとする知恵こそが、法政大学憲章に掲げられた「自由を生き抜く実践」に他なりません。

ポストコロナの法政大学は、現在の困難をくぐり抜けながら創り上げていくものです。法政大学らしく、次の時代の大学のあり方を構築していく作業がこれから展開されていきます。みなさんは、法政大学の一員として、上級生や教職員とともに、それを担っていく仲間です。

法政大学へ、ようこそ。



ようこそ法政へ
2022年度新入生へのメッセージ

15の学部長から 新入生のあなたへ

法学部

言語と論理に鋭敏に、 そして明晰に

法学部長 橡川 泰史 教授

入学おめでとうございます。
皆さんはこれから、法学や政治学を体系的に学んでいくことになります。

法律も政治も、大ざっぱにまとめてしまえば、多様な人々が共通の空間で生きていくのに伴う衝突や軋轢に対処し、これを解消させたり緩和を試みたりする営みです。

肝心なのは、この営みが実力行使によらず言葉と論理を尽くして行われるということです。そのような営みの在り方を探求するのが法学であり政治学です。ですから皆さんは何よりも「言語」とそれを操る際の「論理」に鋭敏でなければなりません。しかも現実の世界の現実の人々の暮らしが関わるのですから、過去・現在・未来の世界の有り様を、できる限り明晰に言語と論理で語れるように知識と感性を磨くことが求められます。そのためのリソースは、大学に山ほど備わっています。まず、この宝の山の活用の仕方を身につけるところから始めましょうか。さあ！



Tochikawa Yasushi
1961年東京都生まれ。1985年中央大学法学部卒業。1990年中央大学大学院法学研究科退学。法学修士（中央大学）。静岡大学助教授、神奈川大学教授を経て、2011年本学着任。専門は商法・決済法。

社会学部

あなたの行動が 社会を変える

社会学部長 宇野 斉 教授

ご入学おめでとうございます。

学びには皆さんと周りの方々の心と体の健康が重要です。常に気を配ってください。

人々と組織、それらのつながりとしてのネットワークで社会は構成されています。どんな人々、組織、ネットワークか、その対象の構造は過去どうで、今なぜそうかを学び、これからどうするかを考えましょう。

社会のさまざまな対象の複雑さに対応するためには、皆さんそれぞれの知識、思考も対象と同等以上の複雑さが必要です。

行動すれば変化します。どう行動するとどう変化するか、その変化はなぜ良いかも過去と現在から学びましょう。皆さんの知識、思考と行動による変化が次の社会を決めます。

構造、行動、変化をいかに学び思考するか、学ぶ方法とともに、社会学部で学びましょう。単に記憶するのではなく、行動に生かせる状態まで体系的に身に付けましょう。そして次の社会に変化させるのはあなたです。



Uno Hitoshi
1960年生まれ。筑波大学社会学類卒業。大洋漁業(株)を経て、同大学院修士課程経営・政策科学研究科修了。博士課程社会学研究科単位取得退学。富山大学、流通科学大学を経て2002年本学着任。2004年より教授。専門は組織とネットワーク。

文学部

百周年

文学部長 安東 祐希 教授

皆さん、ご入学、おめでとうございます。
文学部は今年、創設百周年を迎えます。

1922年に文学科と哲学科が法文学部に設置されたのです。法政大学の基となる東京法学社の設立から42年後のことでした。

百年前の大正11年は関東大震災の前年で、日本にはまだラジオの放送局がなかった時代です。その当時の大学生といえば、新入生の皆さんにとって祖父母の祖父母くらいの世代でしょう。

さすがにそこまで遠くなるとなかなか実感が湧かないかもしれません。しかし、百年前を含め多くの先輩たちを身近に感じる事が入学後はあるでしょう。過去の事実の描写に触れたときだけは限りません。映画の中でも「俺は法政だ」などと耳にすれば、何やら心が動きます。共感を持てるのです。

歴史ある大学に通うことを楽しんでください。法政は百年以上、各時代に染みこみ、もはや文化の一部ともいえるでしょう。



Andou Yuuki
1965年東京都生まれ。東京工業大学理学部卒業。筑波大学大学院数学研究科修了。博士(数学)。1995年本学第一教養部着任。2003年より文学部哲学科。2005～08年学生部長。専門は数理論理学(証明論)。

経営学部

企業経営の本質を学ぶ！

経営学部長 金 容度 教授

ご入学おめでとうございます。

人生の黄金期であるはずのこれからの4年間、皆さんは経営学部という電車に乗って、生き物の企業を「見る目」を養い、企業で働く能力を鍛え上げます。行動と思考・哲学の間、現状と歴史の間、理想と現実・実際の間を往復しながら、企業外部から企業経営を見る洞察力と深い思考力、企業内で活躍する上での行動力や実行力を身に付けていきます。

そのために、経営学部は多様な内容を体系的に整えているカリキュラムを用意しています。専門性高く、熱意あふれる教授陣も皆さんを待っています。多くの企業家が輩出され、個性的な人材が社会各界で活躍されていることが教育の成果を物語っています。

しかし、学ぼうとする皆さんの姿勢が何より大切です。経営学部の学びのプラットフォームの強みを生かし、Withコロナ時代を自分のものにしましょう。

企業経営の本質を学ぶ場へ、ようこそ。



Kim Yongdo
韓国ソウル大学経済学科卒業。東京大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。2002年本学着任。専門は日本経営史、企業間関係論。主要著書「日本の企業間取引」(有斐閣)、「日本IC産業の発展史」(東京大学出版会)。

経済学部

世界を見る目を養おう、 そしてより良い人生を生きよう

経済学部長 廣川 みどり 教授

経済・社会をどのように眺めたらよいのか。自分はどういう選択を行ったらよいのか。それが経済・社会をどのように変えていくだろうか。そうした仕組みについての考え方を提供するのが経済学です。

私たちの行動や政府の政策は世界とつながっています。想像しやすい例としては家庭のゴミが地球全体に与える影響でしょうが、もっと思わぬ影響が及ぶこともあります。例えば、サブプライム・ローン問題では、米国の低所得者層向けの住宅政策が世界に大きな不況をもたらしました。そこには複雑な金融商品の問題も絡んでいました。先人の積み上げた知見をもとに考えること、その一つとして歴史をひもとくこと、もう一つは経済を眺める枠組みを持つことが大切です。経済学は、皆さんが自分で考えるためのツールを提供します。それは皆さんの人生の羅針盤となるでしょう。

ようこそ、経済学へ！ 続きは教室で！



Hirokawa Midori
1957年神奈川県生まれ。東京大学教育学部卒業。一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了および同研究科博士後期課程単位取得退学。博士(経済学、一橋大学)。1991年本学着任。個人の意思決定が社会や制度に与える影響について(また逆の影響についても)広く関心を寄せる。

国際文化学部

困難な時期だからこそ

国際文化学部長 松本 悟 教授

ご入学おめでとうございます。皆さんは「コロナ禍」という大変困難な時期に大学生活を迎えます。当たり前に行けた海外は幾つものハードルを乗り越えないと届かない場所となり、1メートル以内の距離で15分間話することを濃厚接触と呼ぶようになりました。「異なる文化の間でのコミュニケーション」を学ぶ国際文化学部にとっては逆風のように見えます。

しかし、だからこそ「留学って何だろう、直接会ってどんな意味があるのだろう、オンラインで置き換えられるものって何だろう」と真剣に考える機会を与えてくれます。当たり前にできていたことの意味を問うこと、これこそ大学での学びの核心です。

言語、情報、表象、国際社会という学部の四つの柱を駆使して一緒に当たり前を問い直していきましょう。もしかすると、皆さんは、とても幸運な時期に、大学生活を始めるのかもしれませんよ。



Matsumoto Satoru
1963年神奈川県生まれ。早稲田大学(経済学士)、シドニー大学大学院(MSc)、東京大学大学院(国際協力学士)。NHK記者、国際協力NGOラオス事務所代表、調査・提言NGO代表理事などを経て2012年本学着任。



Niiya Yu

Born in Japan and raised in Switzerland, Yu Niiya earned her MA in Social Psychology at the University of Tokyo and her PhD in Social Psychology at the University of Michigan. She joined Hosei when GIS was established in 2008. Her research interests lie in the role of interpersonal motivations in prosocial behaviors across cultures.

GIS (グローバル教養学部) Try a bit of everything

GIS(グローバル教養学部)長 新谷 優 教授

A student once said: “At GIS, you get to study a bit of everything.” So, is GIS like Baskin Robbins’ ice cream parlor where you get to taste various flavors? Yes and no. Yes, because GIS offers a wide range of disciplines from literature, linguistics, sociology, and psychology to environmental studies, tourism management, and data sciences in which students can develop expertise over their four years. But also “no” because through our liberal arts education, GIS

hopes that students will gain more than expertise in various disciplines. On top of specialized and broad knowledge and skills, students are expected to learn how to question current knowledge, current society, and the current state of the world and to be able to suggest ways for improvement. Liberal arts education at GIS is about learning how to create a better future for us all – and this all starts by trying out a bit of everything. Welcome to GIS!



Takesada Naruhiko

1966年生まれ。東京大学法学部卒業後、政府機関で14年間途上国援助に携わる。東京大学大学院新領域創成科学研究科にて博士号（国際協力学）取得。2010年本学兼任。専門は国際開発／国際協力。

ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の感染が続く難しい環境の下ですが、新たな旅の始まりに、皆さんは大きな期待を抱かれています。未来は、今まで以上に変化が大きく、従来のやり方や生き方が通用しないかもしれせん。皆さんに求められるのは、その旅をただ苦勞が多そうだと不安視するのではなく、未知の世界をより大きな自由と捉え、周りの人と協力しながら自分なりの挑戦を重ねていくことです。そのために必要な力を身に付ける機会は法政大学に多くあります。とりわけ人間環境学部は、持続可能な社会の構築に寄与する人材の育成が目的です。地域社会から国際社会、自然科学から社会科学、人文学、幅広く実践知を育みながら、これからの社会を生き未来を作るために必要な力を身に付け、皆さん一人一人が成長を実現できる場だと考えています。私たち教職員と共に、これから永く続く旅に向けて良い準備をしましょう。

人間環境学部 新たな旅の始まりに

人間環境学部長

武貞 稔彦 教授

現代福祉学部 ウェルビーイングの実現

現代福祉学部長

服部 環 教授

ご入学おめでとうございます。心から皆さんを歓迎します。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、私たちは多くの場面で行動が制限されてきました。皆さんは大学進学に向けた学習を進める中で、先生方や友人と自由に会うことができず、もどかしい思いをされたことと思います。先を見通すことが難しい状況が今も続いています。多摩キャンパスで皆さんが友人と未来の自分たちの姿について語り合えるよう努めます。

本学部の福祉コミュニケーション学科では社会福祉と地域づくり、臨床心理学科では臨床心理学を柱としてウェルビーイング、つまり健康で幸福な暮らしの実現について学びます。学科は二つに分かれていますが、カリキュラムは学科の垣根を越えて総合的に学修できるよう構成されています。皆さんがウェルビーイングを幅広い分野で実現できる人材へ成長されることを期待しています。



Hattori Tamaki

1956年群馬県生まれ。筑波大学第二学群人間学類卒業、同大学大学院教育研究科・心理学研究科修了（教育学博士）。宇都宮大学助教授、筑波大学教授を経て2013年本学兼任。2017年人間社会研究科長。専門は教育心理測定学。

スポーツ健康学部 スポーツと健康に向けて 崇高な目標を掲げよう！

スポーツ健康学部長

鬼頭 英明 教授

皆さん、ご入学おめでとうございます！

多摩キャンパスのスポーツ健康学部は、法政大学唯一の「トンネル」を抜けた、都会の喧騒から離れた高台に位置しています。皆さんは、これから4年間、緑とグラウンドに囲まれた新鮮な空気にあふれる環境の中で、「スポーツ」と「健康」に向き合い、考え、究める貴重な機会を得たことになります。

学部の目的は、「スポーツ健康学」の体系的な教育と研究を通じて、健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与し、公共の福祉に貢献することとしており、我々は三つのコースを用意して皆さんをお待ちしていました。

「専門は深く、良識は高く」を胸に刻み、崇高な目標に向かって走り出してください。大学での学びは人生の肥やしになるもの、すべきものであり、身に付けた専門性を生かし、社会にさまざまな場で良識ある社会人として活躍することを願っています。



Kito Hideaki

1954年名古屋生まれ。岐阜薬科大学卒業、同大学院薬学研究科博士課程単位取得退学。薬学博士。岐阜薬科大学、文部科学省スポーツ・青少年局、兵庫教育大学を経て2016年本学兼任。専門は学校保健、公衆衛生学。

キャリアデザイン学部 新たな生き方を 探求しよう

キャリアデザイン学部長

荒川 裕子 教授

ご入学おめでとうございます。2003年に誕生したキャリアデザイン学部は、新入生の皆さんとほぼ同じ歳月を積み上げてきました。新設当時は「キャリア」という言葉はまだまだ限定的に用いられるだけでしたが、現在では、さまざまな場面でキャリアやキャリアデザインという言葉を目にするようになりました。そもそもキャリアデザインとは、「人と人との支え合いながら、より良く生きるために主体的に人生（キャリア）を設計すること」です。21世紀に入り、人々の生き方や働き方の「定番」が崩れ、新たな人生の歩み方が模索される中で、キャリアに対する意識や関心が高まっています。

コロナ禍という、現代社会がかつて遭遇したことがない状況を経験した今、私たちの生き方、働き方、学び方には、さらなる変化が訪れつつあります。そのような時代に入学された皆さんには、ぜひ、新たなキャリアの可能性を探求してほしいと願っています。



Arakawa Yuko

神奈川県生まれ。東京藝術大学美術学部卒業、東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。静岡文化芸術大学文化政策学部助教授を経て2005年本学兼任。専門は西洋美術史（特にイギリス近代絵画史）、アートマネジメント。

情報科学部 情報で未来を築き上げよう

情報科学部長

藤田 悟 教授

皆さん、入学おめでとうございます。未来の自分を磨くための新たなステップが始まります。新しい友とともに、さまざまなものにチャレンジしてください。

情報科学部は「情報」について考える学部です。現在、人工知能の研究に注目が集まっていますが、自分たちは、どのように物事を考えているのでしょうか。それをどのようににコンピュータで実現するのでしょうか。先人たちは長い研究を重ね、成功と失敗の試行錯誤の中から、現在の技術を生み出してきました。

それらを学びつつ、次の時代に向けて、さらに進んだ概念を生み出すために考え続けることが重要です。コンピュータが人間と同じレベルの知能を持つまでには、多くの課題が残されています。新入生の中から、その課題にチャレンジする学生が現れるのを楽しみにしています。若いアイデアで、新しい概念を築き上げていきましょう。

皆さんの成長を楽しみにしています。



Fujita Satoru

1961年静岡県生まれ。1984年東京大学工学部卒業、1989年同大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。日本電気株式会社を経て、2008年本学兼任。専門は人工知能、サービスシステム。

国内大学への交流学生制度

学生交流協定について

法政大学では、コロナ禍により教育活動にさまざまな影響がある中、学生の多様な学びの機会を創出しています。その一つが交流学生制度で、異なる地域や他の大学で学修できる国内留学環境を整備し、他大学で修得した単位も認定することで交流を促進しています。自身のさまざまな可能性にチャレンジしてみたい人は、ぜひ応募してみてください。

●交流学生制度の概要

対象大学	北海学園大学（北海道札幌市）／関西大学（大阪府吹田市他）／沖縄大学（沖縄県那覇市）／名城大学（沖縄県名護市）
応募資格	本学に1年以上在籍し、2022年度に2年生以上となる学部生
派遣期間	1年間または半年間（春学期・秋学期のいずれか）

●単位互換について

派遣先の大学で修得した単位は、本学所属学部で審査の上、本学の単位として認定します。

●出願などに関するお問い合わせ

法政大学学務部学務課学務担当

E-mail: gakumu@hosei.ac.jp

対象学部・学科、受入学部・学科、出願方法などの詳細は、2022年度の募集要項を参考にしてください。
※2022年度の交流学生は既に募集を終了しています。2023年度の募集に関しては、2022年10月頃に大学ウェブサイトにてお知らせします。



2022年度の
交流学生募集のお知らせ



交流学生制度利用者と座談会をしました

2021年度から、新たに関西大学との交流学生制度（国内留学プログラム）が始動しました。その第1期生となる参加学生3人を囲んで、法政大学教職員との座談会を開催しました。

「国内留学では、貴重な経験をすることができ、参加して良かった」と口をそろえた3人。座談会では、自分の大学との違いを肌で感じながらも、新たな学び舎での大学生活を有意義に楽しんだ様子が語られました。

人間環境学部にも所属しながら、環境やインフラについて学びたいと工学系学部への派遣を選んだ阿波加さんは、起業プログラムにも参加。学びの機会を求めて貪欲に行動し続け

た結果、「一生仲良くしていきたいと思える友人にも出会えた」と笑顔を見せました。

関西大学から法政大学に来た吉村さんは、関西と東京の文化の違いを実感。しかも秋学期からの参加ゆえに「環境になじむまで戸惑いがあったものの、『今しかない』という思いが行動の原動力になった」と言います。

4年次の春学期というタイミングで国内留学に踏み切った兒玉さん。「留学先の教授が客観的な立場でアドバイスをしてくれて、それが将来を決断する後押しになりました」と力強く語りました。

※座談会の全文記事は、大学ウェブサイトをご覧ください。

【参加学生】※学年は座談会実施当時

- 兒玉 真太郎さん（法政大学文学部地理学科4年）
→関西大学文学部地理学地域環境学専修に在籍（2021年度春学期）
- 阿波加 夏輝さん（法政大学人間環境学部人間環境学科3年）
→関西大学環境都市工学部都市システム工学科に在籍（2021年度春学期）
- 吉村 太我さん（関西大学商学部商学科2年）
→法政大学経営学部市場経営学科に在籍（2021年度秋学期）



前編



後編

見知らぬ土地で、
学び暮らしてみたら
新しい自分に出会えた
～国内留学参加者による座談会～



左から、兒玉さん、阿波加さん、吉村さん、廣瀬克哉総長、小秋元段副学長、菊池克仁学務部長、鷹背夕子学務課長

学内外で 豊かな経験をしよう

デザイン工学部長 福井 恒明 教授

ご入学おめでとうございます。法政大学デザイン工学部へようこそ。

デザイン工学は幅の広い世界です。計画者・設計者が持つ工学の知識やデザインの技術だけではなく、その人がどんなことを見聞きして経験し、どのような問題意識を持って何を解決しようとするのかによって、でき上がるものが変わってきます。良いデザインを実現するには豊かな経験をする必要があるのです。ですから、大学が授業や実習・演習として提供するカリキュラムを修得するのみならず、大学の外に出て、建築や都市が使われる場面や社会の仕組みに注意を払い、あるいはものづくりの最前線の様子を目の当たりにしてください。それらについて教員や先輩に問いかけ、同級生と議論してください。まずは素朴な疑問でもよいので授業の後に教員に声をかけてみましょう。デザイン工学部の教員は、それぞれの知識や経験をもとに、皆さんをデザイン工学の世界にご案内します。



Fukui Tsuneaki

1970年東京都生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了。清水建設、東京大学、国土交通省国土技術政策総合研究所等を経て2012年本学着任。専門は景観工学。

理工学部 創造する力と育む優しさを

理工学部長 伊藤 一之 教授

皆さん、ご入学おめでとうございます。

理工学部は、科学技術を用いて夢を形にし、未来を創る学部です。いま世界は、環境破壊、感染症の蔓延、武力紛争など、さまざまな所で既存の枠組みが行き詰まり、これに代わる新しい在り方を模索しています。そしてこの新しい時代を創り担うのは、まさに皆さんです。大学での学びや経験は、困難を乗り越え、素晴らしい未来を創造するための大きな力となることでしょう。また、何事も一人では成し遂げられません。皆さんには、さまざまな国の文化を理解・尊重し、異なるルーツを持つ人々と力を合わせて、豊かな未来を育む人になってほしいと思います。そのためには、幅広い教養を身に付け、他者を思いやることのできる人になってください。

法政大学で過ごす時間が、皆さんの人生にとってかけがえのない貴重なものとなることを、そして、皆さんが手を携えて素晴らしい未来を築いていくことを願っています。



Ito Kazuyuki

1973年岐阜県生まれ。法政大学工学部卒業。東京工業大学総合理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。2005年本学工学部に着任。専門は、知能ロボット。

生命科学部 研究をしよう

生命科学部長 廣野 雅文 教授

皆さん、ご入学おめでとうございます。

生命科学部は、生命とそれらを取り巻く環境についての学問をするところです。生命の不思議と可能性を発見し、それらを持続可能な生命・環境システムづくりへ生かすためのさまざまな研究が行われています。皆さんは科学の基礎的な知識を身に付けた後、いずれ研究室に入ってその研究に参加します。「研究」といっても想像しにくいかもしれませんが、教室で勉強するよりもっと総合的な知的活動で、とても楽しいものです。

大学の教員は第一線で活躍する研究者でもあります。学問には自分で研究しているからこそ分かる面白さがあり、皆さんが興味を持ってくれば私たちはそれを伝えることができます。この環境を利用して楽しんで勉強し、卒業するときに「私はこんな面白い研究をしました」と言えるようになってください。研究を楽しむ過程で身に付けたことが、皆さんの大きな糧になるはずです。



Hirono Masafumi

1958年東京都生まれ。筑波大学第二学群生物学類卒業。同大学院博士課程生物科学研究科修了。理学博士。理化学研究所、東京大学大学院理学系研究科などを経て2015年本学着任。専門は分子細胞生物学。



HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

中古農機のリユースビジネスを拡大し、 農家、会社、社会に貢献したい

株式会社マーケットエンタープライズ プラットフォームチームマネージャー兼 株式会社 UMM 取締役

伊藤 香純さん

入社1年目で中古農機の買い取りという新規事業を立ち上げ、5年目には新会社の取締役に就任するなど、輝かしいキャリアを歩んでいる伊藤香純さん。ビジネスのさまざまなシーンで、大学時代にインプットした知識や、仲間とグループワークをした経験が役立っていると言います。



失敗やミスをしたときは、寝ている間に頭をリセットし、翌日に持ち越さないのが伊藤さんのルール

入社1年目で立ち上げた事業が
会社の柱の一つに成長

インターネット上の中古農機の買い取り・販売プラットフォームを運営するUMMの取締役に務めています。この事業は、入社1年目に私が立ち上げた中古農機の買い取りからスタートしたものです。中古農機の市場には将来性がある、売買の橋渡しとなるプラットフォームは持続可能な社会を実現するビジネスに나と思います。実家が農家なので、農機が相棒のような存在だと知っていましたし、ものづくりの苦労を知っているだけに、捨てずに再利用したいという思いもありました。1トンを超えるような農機を、どのように運搬し、どこに保管するかが最初の課題でした。農機の知識はほぼゼロでしたが、他企業と提携をしたり、自ら買い取りに向いて生の情報やノウハウを蓄積したりして、仕組みやマ

ニユアルを作り上げていきました。

買い取り事業のスタート後は、販売という壁が立ちました。オークションは出品料や保管料がかさみすぎ、試行錯誤を繰り返しながら、販売プラットフォームも開発しました。販売先の農家の方の声を聞きながら、販売価格に転嫁される点検や修理をどの程度にすべきかなど、ブラッシュアップをしています。その結果、中古農機の売上は年間2億5000万円を超え、会社の一つの柱に成長しました。まだ達成感には至っていませんが、入社前からやりたかった新規事業に挑戦し、軌道に乗せられたのはうれしいです。

キャリアデザイン学部の 濃密な4年間

高校時代、ブログで美容やダイエット



切磋琢磨したキャリアデザイン学部の同級生(ボアソナード・タワー地下1階のフォレストガーデンにて。前列右から2人目が伊藤さん)

トなどの情報を発信し、かなり大きな反響を得ていたため、将来はメディアやウェブ関連の仕事をしたいという漠然とした方向性を思い描いていました。キャリアデザイン学部に入学したのは、自分の将来や職業についてじっくり考えたいと思ったからです。

学部の授業には、企業での長期インターンシップとその準備・フォローがセットになった「キャリア体験学習」があり、私は2年次に制作会社でアルバイト雑誌の編集を体験しました。また、教室外から遠隔で授業に参加するなど、時代の変化を先取りして何でもチャレンジしてみる田中研之輔教授の授業がとても印象的でした。

授業も課題もグループで取り組むものが多く、実践を通じてチームワークの楽しさや意義を見いだせたことは、今とても役立っています。また、授業でインプットしていたマーケティングや経営に関する知識が仕事と「リンクした」と感じる場面もあります。

就職活動では、幅広く仕事をやらせてもらえそうなベンチャーや中小企業を受けました。面接を重ねていくうちに、私にとっては、仕事の内容以上に一緒に働く人が大切だと考えるようになり、毎回面接の最後に丁寧なフィードバックをしてくださったマーケットエンタープライズを選びました。

チャンスをつかむために 常に自分の2歩先を見る

新規事業に限らず、ビジネスには新しい知識のインプットが欠かせません。社会人になってからも常に勉強や情報収集をしています。目の前の業務に関するものだけでなく、先輩より上の上司、つまり自分の2歩先にいる人が求める知識やスキルを先取りすること意識しています。上司が新しいことに着手するとき、それに貢献できる可能性が高くなるからです。

しかし、スキルやアイデアがあっても、自分だけで実現できることには限界があります。周囲と力を合わせてアウトプット力を高める。そこに仕事の面白さがあると感じています。

中古農機事業はその後分社化され、入社5年目で新会社の取締役に任されました。裁量や権限が広がった分、責任も重くなりましたが、権限と責任はセットで与えられるものと考えているので、むしろモチベーションを高める要素となっています。

社会に出て気付いた 自分の中の実践知

ネット型リユースの基盤となるプラットフォームには、社会やユーザーの声に合わせた対応が求められます。

進化論を唱えたダーウィンが「生き残れるのは、強いものや賢いものではなく、変化できるもの」と言ったように、世界や環境などあらゆるところに目を向け、柔軟に変化しながら事業を拡大して社会に貢献したいと考えています。今の私の土台となっているものは、大学時代に培われたといっても過言ではありません。法政大学は、考える力や行動する力を身に付けるのにまたとない場です。ぜひその環境を存分に活用し、迷ったときは友人や先生、キャリアセンター、卒業生など強力な法政ネットワークを利用してください。



Ito Kasumi

1993年福島県生まれ。2012年キャリアデザイン学部に入學。2016年卒業後、株式会社マーケットエンタープライズに入社。1年目に同社の新人賞「Rookie of the Year」を獲得。2020年4月、グループ会社である株式会社 UMMの取締役に就任。





スポーツを取り巻く現状

スポーツ傷害とその予防への取り組み

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 教授 瀬戸 宏明

2021年の東京オリンピックが終わってなお、スポーツへの関心は老若男女を問わず高まっています。それは、2022年が北京オリンピッククワリターのW杯などスポーツイベントがめじろ押し的一年ということもありますが、現代社会の特性も無視できません。

コロナ禍が長引く現在、ソーシャルディスタンスやリモートワークに代表されるステイホームの継続により、仕事とプライベートの区別が難しくなっています。そのため、ストレスの蓄積がコロナ禍以前より増加傾向にあり、また1日の平均歩数が3000歩未満という人も少なからず存在する（コロナ禍以前の1日平均歩数は男性が7243歩、女性が6431歩）との報告もあるほど、運動不足が問題視されています。スポーツを行うことは、肥満に代表される身体

態、呼吸循環といった生理機能やバランス機能などを改善するだけではなく、心の健康の促進・維持においても大きな役割を果たすといわれています。実際に厚生労働省も、「健康日本21」という政策の中で「休養・こころの健康」の強化を図っています。

そうした心身育成や健康寿命の増進というメリットがある反面、スポーツによる傷害の件数も増加しています。スポーツを行うことにより残念ながら「けが」をしてしまった場合は、もちろん治療が必要になります。ちなみにスポーツ医学では、ねんざや打撲など外から加わる強い力によるけがをスポーツ外傷、関節痛や疲労骨折など身体を使い過ぎて起こるものをスポーツ障害と言い、それらスポーツによるけがの総称をスポーツ傷害としています。

スポーツ傷害を引き起こすもの

さてスポーツ傷害からの復帰においては、復帰までの期間や費用などさまざまな問題があります。以前は感じなかった「不具合」を感じるというのもその一つです。スポーツといってもトップアスリートからレクリエーションまでレベルはさまざまですが、その「不具合」を感じるのはすべてに当てはまると思います。例えば、膝の軟骨を痛めてしまった後の痛みや変形（変形性関節症）、足関節をひねってしまった後に続く痛みやその後に繰り返すねんざ（足関節捻挫後遺症）、けがへの恐怖心など「不具合」の内容は多種多様です。それが原因で元の競技レベルに戻れない、戻っても成績が安定しない、スポーツに対する意欲がなくなるなどの状況を招く可能性もあります。

れました。多くの仲間と共に私もそれに参加し、現在に至ります。

このジョーンズ骨折検診は、疾患についての説明後、機器などを使用してチェックを行い、その後個別に必要事項をフィードバックするという形式で行います。法政大学の体育会にも私がサポートしている団体がいくつかあり、この検診を取り入れる前は悪化して手術となるケースも多く見られました。しかし検診を取り入れて5年以上経過した現在では、手術に至る疲労骨折はほぼ見られなくなりました。最初はあまり認知されていなかったジョーンズ骨折も選手たちに理解されてきて、予防への取り組みもスタッフの指導の下に浸透してきているようです。これもスタッフの理解があったからこそと感謝しています。

多くの人がスポーツを楽しむように

ここに示したのはほんの一例にすぎません。例えばスポーツ健康学部では毎年、学部の新入生や体育会各部を対象としたメディカルチェックを行うなど、多くの予防に関する取り組みを実施しています。また大学では、傷害予防を十分に理解してもらえようという授業に取り組んでいるところ。このような取り組みによって、多くの人がけがをすることなく、楽しくスポーツを行う一助になれば幸いです。



※ 癒合 骨折した骨がくっつくこと

ESSAY

15学部の教員たちが、研究の世界をエッセー形式でご紹介します。



す。トップアスリートや社会人はもちろんですが、学生がスポーツを行えなくなると、心身の成長に大きな影響が出ることは容易に想像できます。また例えば糖尿病の治療のために行ってきたスポーツができなくなれば、糖尿病のコントロールに大きな影響を与えることになります。保存的な治療や手術方法など、スポーツ傷害の治療面は日々進歩しています。しかし当たり前のことですが、そもそもスポーツ傷害が起こらなければ、そうした「不具合」は生じません。つまりスポーツ傷害を未然に防ぐ予防がある意味最大の治療ともいえるかもしれません。避けようのないスポーツ傷害も存在すると思いますが、スポーツを長く行うことや健康維持を考えた場合、予防や治療など多面的な取り組みが必要になってくると思われます。

スポーツへ積極的に取り組む大学で学んだ影響か、医師になって数年後にスポーツ医学に関わるようになり、気付けば20年以上スポーツ傷害を診察しています。赴任先の上司の勧めでプロサッカークラブのチームドクターの末席に加えていただいたのが発端で、加入直後に1人の選手の離脱がチームにどれだけ大きな影響を及ぼすかを目の当たりにしたのを今でも鮮明に覚えています。その後、現在に至るまでいろいろなチームや個人アスリートをサポートしてきました。

選手たちと深く関わるにつれ、日常生

活なら骨が癒合してしまえばさほどの支障にならないような骨折でも、スポーツ選手の場合は元のコンディションに戻るのに離脱期間以上に長い時間がかかるという状況を何度も経験しました。学生なら限られた時間を消費してしまえずし、プロであれば収入など生活にも影響が出かねません。さらに、スポーツ傷害後の「不具合」がスポーツのパフォーマンスに多大な影響を与える場合も少なくありません。

傷害予防への取り組み

治療に加えて予防にも興味を持つようになり、運動器傷害の予防を研究テーマの一つとしています。なかでも、第5中足骨の疲労骨折を予防するための検診を積極的にを行っています。第5中足骨というのは、足の甲の一番小指側にある骨で、その疲労骨折は、1902年にSir Robert Jones博士が発表したことからジョーンズ骨折とも呼ばれています。ジョーンズ骨折は代表的な疲労骨折の一つであり、一度発症するとスポーツ復帰まで数カ月かかり、手術となることもまれではありません。大腿骨や上腕骨などと比較すると小さな骨であるにもかかわらず、その疲労骨折が競技からの離脱につながってしまうことに関心を持ち、研究をしていました。そこへジョーンズ骨折研究会が立ち上がり、その中でジョーンズ骨折検診というものが提案さ



Seto Hiroaki

1994年3月順天堂大学医学部卒業、同大学医学部整形外科に入局し、2004年12月博士号取得。2018年4月より法政大学スポーツ健康学部准教授。専門分野は膝関節外科、スポーツ医学。論文に「大学サッカー部に対するJones骨折検診の経験」(2019年、法政大学スポーツ健康学研究)、 「女子バスケットボール選手のリバウンド動作時における下肢キネマティクス」(2021年、日本臨床スポーツ医学会誌) など。

社会心理学の観点から、 集団間の対立関係を解きほぐす

戦争や民族紛争などの解決に向けた研究を進める熊谷智博教授。
「人間の考え方の本質」を理解すべく、集団心理のメカニズムの解明に取り組んでいます。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 教授 熊谷 智博



昨日までの隣人が、
突然敵に変わった理由

専門分野は社会心理学です。特に「集団間関係の解明」や「紛争解決」に着目して研究に取り組んでいます。研究の原点は、1990年代に勃発したボスニア・ヘルツェゴヴィナ（以下、ボスニア）紛争です。かつて中欧に位置していた「ユーゴスラビア社会主義連邦共和国」の解体に伴い、地域内で独立の動きが高まり、内戦が起きました。ボスニアでも国の支配を巡って複数の民族による権力争いが繰り広げられ、やがて激しい民族紛争に発展したのです。

当時の私は、法政大学の経営学部で組織論を学んでいました。授業の課題で時事問題を扱うことになり、連日ニュースで取り上げられていたボスニア紛争について調べるうちに、大きなショックを受けたのです。

他国からの攻撃であればまだしも、同じ地域で平和に暮らしていた人同士が、突然対立する立場になって銃を向け合う。なぜそんなことになるのだろう。事と次第によつては、日本でも起こり得ることなのだろうか。そのような答えのない疑問が湧き出て、頭から離れなくなりました。

組織の集団心理を理解するための知識を自分の言葉で表し、活用しようとする積極的な姿勢がうかがえるからです。

社会に出ると、中長期の「計画」の立案に携わる機会が増えます。ただ、人間は具体的な未来像を思い描くのは苦手です。特に現代社会は変化が著しく、予測しづらいのが現実です。

だからこそ、心理学を学び、大局的な視点を育んでほしいと思います。人生には、道に迷ったり、遠回りをしているように感じることもあるかもしれませんが、状況を改善するには大きな変更をしなければいけないと、焦ることもあるでしょう。しかし大局的に視野を広げてみれば、進みたい道につなが

るためには急ハンドルを切らなくても、どの程度軌道修正すればよいか客観的に判断できるようになります。

大学での学びを今後活用できるように、学生に「実践知」というバトンを

つなげていきたいと思っています。

Kumagai Tomohiro

法政大学経営学部経営学科卒業、同大学院社会科学部経営学専攻修士課程修了。東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士前期、後期課程単位取得満期退学。修士（経営学）、博士（文学）。東北大学大学院文学研究科助教、大妻女子大学文学部助教、准教授を経て、2018年より法政大学キャリアデザイン学部准教授に着任。2021年より現職。現在に至る。American Psychological Association、Society for Personality and Social Psychology、日本グループ・ダイナミクス学会、日本心理学会、日本社会心理学会に所属。

見として社会心理学に触れていましたが、やがて社会心理学そのものを学びたいという気持ちの方が強くなり、経営学から軸足を変えたのです。

戦争や紛争では、対立する敵を倒すという大義名分の下、残虐な行為が繰り広げられます。訓練を積んだ兵士だけでなく、時には憤りを感じた一般人も手を下すのです。

集団の中にとると、個人の性格をしのぐ力が働き、普段ならしないようなことができてしまう。その行動原理は何なのか。集団間で対立関係や紛争が生じた場合、人間はどのように反応するのか。その集団の一員となったとき、どのような心理が働くのか。そうした「心の動き」を分析し、不可解で不合理な行動を起こす心理的メカニズムを解明しようと探究を続けています。

人間の本质を探ることで
普遍的な解決の手掛かりに

集団間での対立や紛争の解決を考えるとときに無視できないのは、「第三者」の存在です。

社会は、幾つもの集団が複雑に絡み合いながら関係を構築しているの、ある集団が対立すれば他の集団にも影響を及ぼします。例えば、戦争にまで発展してしまった「ロシア・ウクライナ危機」でも、周辺の国々の動きが戦



ゼミでは社会心理学に関するテーマで学生が活発に議論を繰り広げている。写真は「心理的安全性」を高めるアイデアについてのブレインストーミング



2004年にボスニアに滞在した際の一枚。背景の橋は、ボスニア紛争中に破壊された後に再建され、2005年に初の世界遺産に登録された「スタリ・モスト」



ボスニア紛争の研究は、サラエヴォ（Sarajevo）大学の研究者に協力を仰ぎ、共同で研究を進めている。写真は2018年に現地を訪れた際の一枚

況に影響を与えていることは明白です。第三者の存在は抑止力になるのか、当事者の感情を刺激して戦闘を激化させてしまうのか。そうした視点でも研究を深めたいと考えています。

人間関係の問題は、特殊な事情や独自の要因が絡んで複雑化することが多いものです。しかし、それらの事情を全て考慮すると、仮に問題がうまく解決できたとしても「特定条件でのみ通用する対策」になってしまいます。

普遍的な解決法を探るには、特殊化される事情はそぎ落とし、できるだけシンプルに考えることが必要です。そうすることで、どの国で起こった事例であっても、日本をはじめ他の地域にも応用できる知見になります。

独自事情は心理学の概念に置き換えることで一般化し、「人間の考え方の本質は何か」という根本的な問題の解明に取り組みたいと考えています。

これからの人生に、心理学の
「実践知」を活用してほしい

学生には「社会を少しでも良くするために、今いる場所で自分ができることは何か」という意識を持ち続けてほしいと願っています。

教育者として母校に戻ってきて、何よりうれしく思うのは、学生とディスカッションができることです。受け身

多 摩キャンパスで活動する「はもるぷ」は、自分たちの声を頼りに楽曲を奏でるアカペラサークル。年5〜6回はライブを開催し、練習の成果を披露しています。

アカペラのグループ（バンド）は一般に5〜6人編成で、メロディを歌うリードボーカル、ハーモニーを担当するコーラス、低音部を発声するベース、リズム音をつくるボイスパーカッション（パーカス）というパートに分かれます。約60人の部員は、楽曲に応じて柔軟にバンドメンバーを組み替え、春の「新歓ライブ」「新入生デビューを飾る」「スタバン（スタートバンド）」「クリスマスライブ」など季節ごとのライブ活動に臨んでいます。

「コロナ禍前に市民ホールで開催した特別ライブが、特に印象に残っています」と語るのは笠原さん。「リードボーカルとしてステージに立つことに足を震わせていたら、先輩たちから『絶対大丈夫』と励まされまして。そこで思い切って声を張り上げたら、気持ちよく歌うことができたんです。自分の殻を破れたと感じました」と充実の一瞬を語ります。

「ライブの最後を飾る『全体曲』も一度は聞いてみてほしいです」と語るの、パーカスを担当する村越さん。「全体曲は、一度に大人数が歌い

アカペラサークル「はもるぷ」

気持ちを一つに
互いの声を合わせて、
アカペラの歌を響かせる

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています



上段左から、柳橋俊兵さん（経済学部現代ビジネス学科3年／代表）、水野丈さん（現代福祉学部臨床心理学科3年）、下段左から、笠原康生さん（現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年）、村越太一さん（経済学部現代ビジネス学科4年）



リードボーカルを中心に、コーラス（音域別に複数人が担当）、ベース、ボイスパーカッション（パーカス）のパートに分かれて歌声を合わせる



2021年度の大学祭（多摩祭）での様子。ライブ会場は教室の他、経済学部棟に設置されたステージでも楽曲を披露した



春夏の合宿はサークル内の親睦を深めることを目的として開催。2019年の夏合宿は、千葉県で海でレクリエーションなども楽しんだ

上げるアカペラです。参加者全員が、気持ちを一つにして歌うことを楽しんでいるのが分かるだけに、このときのハーモニーの一体感は格別です」と感動をにじませます。

2020年度以降はコロナ禍で集まって練習することが難しい時期もあり、部員は個々に自分の技術を磨くことに努めました。大学からパーカスを始めたという水野さんは「先輩がマイクの使い方やドラムを叩くような音を出すときのコツを撮ってくれた動画を繰り返し見たり、自分も練習風景を録画して聞いてもらったりしました」と練習の工夫を語ります。

「サークルの魅力は、和気あいあいとした、居心地のよい雰囲気」と口をそろえて語る4人。「先輩たちのアカペラに憧れて追いかけてきたので、自分たちも目標になれるような頼もしい先輩になりたい」と、新たな春を迎えて意気込みます。

代表の柳橋さんは、「これまでのライブ開催は学内中心でしたが、将来的には全国各地のアカペラグループが集結するような、外部のイベントに挑戦することも検討しています。『法政大学からきました、はもるぷです』と、胸を張って自分たちの歌を披露してみたいですね」と、自分たちの飛躍も見据えます。

MY CAMPUS, MY LIFE

※アカペラ
語源はイタリア語で教会音楽を意味する「ア・カペラ」。そこから転じて、今では無伴奏で楽曲を奏でることを意味している

笠 原研究室では、ナノ（10億分の1）やマイクロ（100万分の1）メートルスケールの微細加工や精密分析技術を基盤とした最先端のモノづくりを追究しています。現在は主に『電気化学発光デバイス』の高性能化に向けた研究をしています」と紹介してくれたのは三井さん。

スマートフォンやテレビに使われる「有機EL」は有機物の薄い膜から構成されます。デバイスの形状を柔軟に変えられるように、発光させる材料に溶液を用いるのが電気化学発光の特徴です。しかし、有機ELと比べて発する光が弱いことが課題。そこで、さまざまなアプローチで発光特性の向上に取り組んでいます。

「溶液に電流を流すことで化学反応を起こし、光を生成する現象が電気化学発光です」と解説してくれたのは小林さん。「材料の光化学特性を調べたり、酸化還元反応を測定しながら輝度を強化しようと探究しています」と実験の重要性を語ります。

「実験機材は取り扱いに注意を要する精密機械なので、3年次の春学期は主に座学で実験に必要な知識や技術を集中して学びました。秋学期からは、先輩に教わりながら実践的なトレーニングを進めています」と語るの、倉浪さん。「先輩とともに実験することで、より深い学びを得られ

理工学部電気電子工学科 ナノ・マイクロシステム工学研究室(笠原崇史准教授研究室)



上段左から、笠原崇史准教授、三井俊希さん、小林愛佳さん、下段左から、倉浪大輝さん、大塚凌平さん、波形奏汰さん
※全員、理工学部電気電子工学科4年

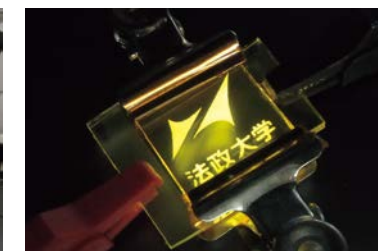
最先端の発光技術で
エレクトロニクス分野の
モノづくりに貢献

ゼミナール・研究室

※今回はオンラインで取材しています



3年生が主体となって開催する勉強会での様子。このときは「有機物質の発光過程」をテーマに、ディスカッションが重ねられた



電気化学発光の実験により、試作部品（素子）が光を放つ様子



研究室では、さまざまな精密機器を用いて、物質の特性や性質を評価する実験を行っている。ここでの実験データは卒業研究にも反映される

ます」と感謝を語ります。

「自分の手を動かしながらモノづくりに携われるので、刺激的です」と話すのは大塚さん。「発光デバイスに関して知らないことも多いので、みなで先行研究論文を読み込み、テーマに基づいて議論する勉強会なども開いています」と語ります。

3年次の終わりから、本格的な個別研究に取り組み始めます。学生の資質や興味に応じて笠原准教授が課題を提案し、相談しながら研究テーマを決めますが、途中で方向性を変えることも。まだ先行研究の少ない分野だけに、さまざまな可能性を考えたしながら柔軟に研究を進めています。コロナ禍の影響により行動が制約される前は、他大学の学生と共に実験する機会も設けられていました。

「笠原研究室で手掛けているのは、次世代のディスプレイには欠かせない、やりがいのある研究だと感じています。先輩方は次々と研究成果を上げて、学術論文を書き上げたり、国際学会で発表したりしています。自分も論文としてまとめられるような成果を出したい」と意欲をみなぎらせるのは波形さん。笠原准教授も「自らの感覚をフルに働かせ、失敗を恐れずに、学生ならではの斬新なアイデアを提案してほしい」と、研究室の学生を温かく見守ります。

※有機EL
正式名称はorganic electro-luminescence（オーガニック・エレクトロ・ルミネッセンス）。炭素を含む化合物である有機化合物に、電圧をかけると発光する現象を利用した技術のこと

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介しします。



※上記写真は東京2020オリンピック競技大会400mハードル日本代表の黒川和樹選手（現代福祉学部3年）に撮影のご協力を頂きました。



陸上競技部

撮影場所：多摩キャンパス陸上競技場
撮影：田中伸弥
集合写真（短距離）：陸上競技部提供

陸上競技部は1919年に創立され、長い歴史の中で数多くの優秀な選手を輩出してきました。2021年の「第90回日本学生陸上競技対校選手権大会」では男子総合4位という結果を残し、「東京2020オリンピック競技大会」では卒業生を含めて4人の選手が出場、日本代表として活躍しました。2022年1月に行われた「第98回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）」ではゴール目前残り1kmで前方の選手を追い抜き、総合10位を獲得。次回の箱根駅伝シード権、「出雲全日本大学選抜駅伝競走（出雲駅伝）」の出場権を勝ち取りました。2022年度も新たな歴史を作るべく、部員一同粘り強く練習に励んでいます。

Message

「自由を生き抜く実践知」を
体現している
学生の声をお届けします。

命のかぎり、
充実した学生生活を

法学部政治学科4年
法政大学応援団第97代団長

Shibayama Naoya

柴山 直也 さん

新入生の諸君、入学おめでとう。
私も今から三年前、君たちと同じく
いまだ見ぬ大学生活に胸を弾ませて
いた。ただ、その時と大きく違うこ
とは、新型コロナウイルス感染症の
世界的な大流行により、さまざまな
価値観が一変し、それに適応してい
かなければならなかったことだろう。
それにより多くの苦労や困難もあつ
たと思う。しかし、君たちはそれを
乗り越え、今この場にいる。そのこ
とに誇りを持ってほしい。

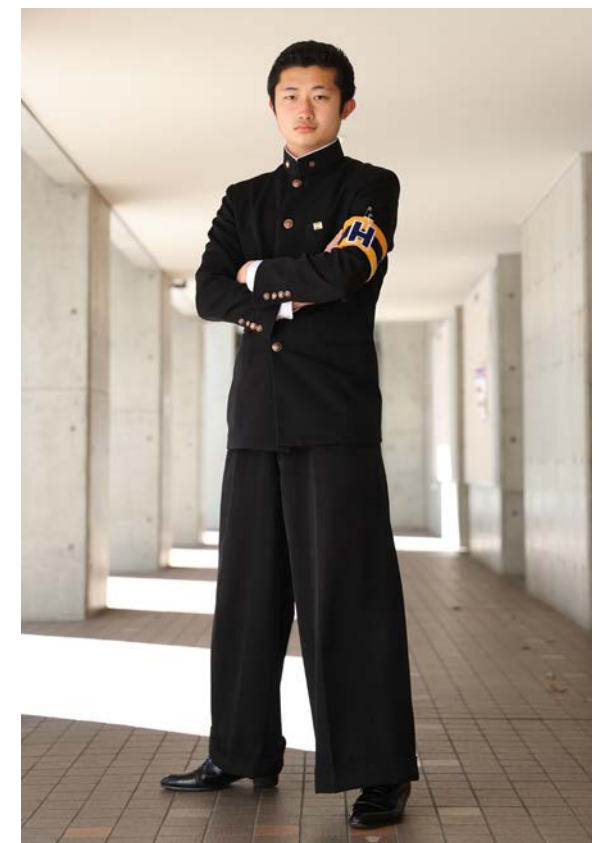
現在、世の中ではさまざまな出来
事が起こり、昨日まで通じた常識が
通用しないような事態になっている。
ただ、私はいくら時代が変わり、どれ
だけ価値観が変わろうとも、変わら
ぬ大切なことがあると思っている。そ
れは「今」を全力で生きることだ。
法政大学の校歌は、こんな一節で始
まる。

「若きわれらが命のかぎり」

ここに捧げて……」

命のある間は、ひたすらに自分の持
てる力を出して取り組もう、という意
味が込められている。新入生の諸君に
はこの言葉の通り、命のかぎり、目の
前のことに全力で取り組んでほしい。

入学したばかりの頃の私は、右も
左も分からないあまり、大学に通う意



味を見失いかけていた。ある日、何と
なく気になっていた応援団のブースに
足を運んでみた。すると東京六大学
野球の一戦を応援するために、明治神
宮野球場（神宮球場）に向かうとい
うので私も同行することになった。最
初は声を出すことすら恥ずかしいと
思っていたが、選手たちの為に全力で
声を張り上げて声援を送る先輩方や
同期の姿を見て心が突き動かされ、い
つの間にか大声を出しながら選手を応
援していた。私もこの人たちのように、
人の心を動かす活動をしたい。その一
心で入団した。

入団後は、さまざまな困難があった

が、その瞬間の「今」を生き、目の前
のことに集中してきた。そのおかげで、
かけがえのない仲間に出会い、充実し
た学生生活を過ごしている。

新入生の諸君も、自分の命をかける
ほど夢中になれるものを大学で見つけ
て「今」を生きてほしい。そうすれば
自ずと進む道が開けてくるはずだ。
勉強や部活動などに全力で取り組んだ
り、サークルで仲間と交友関係を広げ
たり、どんなことでも構わない。その
選択肢の中に応援団があるなら、我々
は君たちのことを心から歓迎しよう。
君たちが充実した学生生活を送れ
ることを祈っている。



後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

後援会の主な事業と活動

多岐にわたる活動を展開しています

個別相談

学修・就職に関する個別相談
※ご案内は別途



スポーツ応援

東京六大学野球、ラグビー、アメリカンフットボール、「箱根駅伝」などの応援を実施



新入生父母の集い

支部ごとに開催（任意開催）
上級学年の父母からのアドバイスや父母同士の情報交換
※開催情報は各支部からお知らせ、後援会ウェブサイトにも掲載



大学・学生への支援

設備支援 大学備品購入・図書資料購入など
学生支援 各種講座、課外活動、奨学金など



後援会総会

2022年度はウェブサイト上での電子表決となります 表決期間：5月21日～30日

広報活動

- ①広報誌『HOSEI』に「後援会だより」を掲載
年8回ご家庭に送付、後援会ウェブサイトにも掲載
- ②『会員のための大学ガイドブック』発行
7月初旬に新入生父母のご家庭に送付、後援会ウェブサイトにも掲載
- ③後援会ウェブサイト
後援会活動のお知らせや各支部の活動の様子などを掲載

<https://www.hosei-koenkai.org/>



子どもの母校は我が母校
会員のための大学ガイドブック
-2021-
後援会は学部学生すべての父母・保証人が会員です
法政大学後援会

後援会からのメッセージ

新入生保護者の皆さまへ



法政大学後援会会長
友利 方彦



法政大学へご入学の学生の皆さま、その保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。

法政大学後援会は、学部・学生全体的に保護者によって構成されるボランティア組織です。保護者の皆さまには、お子さんのご入学と同時に後援会にご入会いただいております。

後援会は、戦後間もない1947年に発足しました。荒廃した教育環境の立て直しを支援するため、保護者らが自ら立ち上げた組織です。発足後75年間、「大学の教育方針にのっとり、大学と学生家庭との連絡を緊密にして教育事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図る」ことを目的に活動してきました。この趣旨に沿って、大学への備品寄贈、学生の課外活動・体育会などへの助成、就職活動への支援など、さまざまな事業活動を通して学生ならびに大学へ財政的支援などを行っています。また、東京六大学野球や「箱根駅伝」などのスポーツ応援を通して、会員相互の親睦も図っています。

互の親睦も図っています。現在、全国に約2万7000人の会員を有し、首都圏および全国35支部で活動を展開しています。

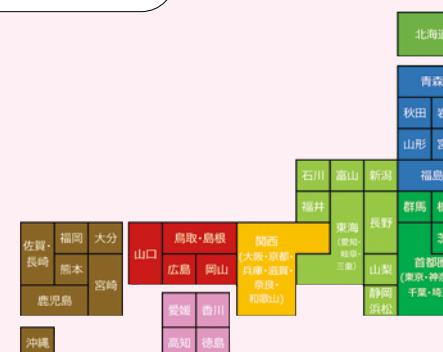
後援会では、毎年夏から秋にかけて首都圏と各支部で父母懇談会を開催しています。懇談会では、廣瀬克哉総長や学部長による講演、職員による就職に関する情報提供を行っています。また、広報誌『HOSEI』や後援会ウェブサイトでも活動情報を発信しています。

2020年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、この2年間は、活動を制限せざるを得ませんでした。2021年度は、対面にオンラインを加えたハイブリッド方式なども取り入れながら活動をしてきました。「子どもの母校は我が母校」を合言葉に、今後も学生と大学を強力にサポートしてまいります。ぜひ、会員の皆さまには、後援会活動へのご理解、活動への積極的なご参加をお願い申し上げます。

ようこそ 法政大学後援会へ

法政大学後援会の概要

- 発足 1947(昭和22)年
- 会員 法政大学に在籍する学部学生全ての父母・保証人
- 目的 法政大学の教育方針にのっとり、大学と学生家庭との連絡を緊密にして教育事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図る
- 首都圏 東京・神奈川・千葉・埼玉
- 支部 全国35支部



2022年度後援会行事について

支部総会・父母懇談会、 首都圏父母懇談会 について

2022年度の支部総会・父母懇談会は7～8月に開催予定です。 ※単独支部開催、複数支部によるブロック開催(支部総会は電子表決)。首都圏父母懇談会は10月に開催予定です。
※所属キャンパスごとに開催(オンライン配信予定)。

開催日時などの詳細につきましては、該当の皆さまに順次郵送でご案内いたします。ぜひご出席ください。

なお、後援会の行事予定などの最新情報は随時、後援会ウェブサイトでもお知らせしています。併せてご覧ください。



支部総会



首都圏父母懇談会



後援会総会と 表決のご案内

法政大学後援会では会則第11条により、2022年度の総会を6月4日(土)に開催いたします。昨年同様、関係者の招集は行わず、後援会ウェブサイト上で電子表決を行っていただき、その表決結果を受けて決議をいたします。

法政大学後援会会長 友利 方彦

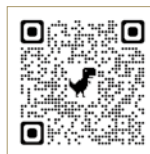
会員(保証人)の皆さまへ、 議決権行使のお願い

【議案】

2021年度事業報告(案)
2021年度決算報告(案)
2021年度監査報告
2022年度事業計画(案)
2022年度予算(案)
2022年度役員の選出について

【議案の閲覧・表決方法】

下記アドレスより「2022年度後援会総会表決」へアクセスし議案を確認の上、表決フォームへお進みください。



<https://www.hosei-koenkai.org/branch/shutoken/-2022.html>

【表決期間】

5月21日(土)～5月30日(月)

※表決の入力・登録がない場合は、議長に一任いただいたものとさせていただきます。電子表決のうち、賛成が半数を超えた場合に可決とさせていただきます。なお、決議結果は後日、後援会ウェブサイトでご報告いたします。



2021年度の後援会役員(一部)

後援会からのメッセージ

大学と家庭をつなぐ架け橋に

後援会運営委員広報担当



新入生保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。
大学の後援会についてよく知らないという方が多いことと思います。おそらく、「高校までのPTA活動とは違うの?」「役員になるといろいろ大変そう」「大学になってまで保護者の会があるなんて」というイメージを抱かれていますのではないのでしょうか。
実は私もその一人でしたが、突然、ボランティア活動として後援会役員をやってみないかとお誘いを受けました。お話を伺ってみたところ、「新たな出会いもあり楽しいかもしれない」「東京六大学野球の応援も楽しみなあ」など、想像が膨らんでいきました。そこで、子育ても最終コーナーにさしかかり、これがラストチャンスと思い切って役員を引き受けました。

後援会の活動に参加してみると、同じ年頃の子を持つ父母の皆さまとの交流が楽しく、いつの間にか、法政大学の大ファンになっていました。
た。役員は、総長をはじめ教職員の皆さまのお話を直接聞く機会があり、特に就職関係については理解を深められました。また、キャンパスを訪れる機会もあり、学生時代に果たような気持ちで活動しています。
後援会では、さまざまな方面から学生へのサポート活動を行っています。「箱根駅伝」をはじめとするスポーツ応援は、コロナ禍で思うように実施できていませんが、今年度より徐々に再開する予定です。父母懇談会、個別相談会なども、オンラインを併用しながら開催予定です。
新入生保護者の皆さま、お子さまの入学を機に、後援会を通じて子どもと共に新たな大学生活を歩んでみませんか。全国の支部でもさまざまな企画がありますので、ぜひお気軽に後援会活動にご参加ください。



2021年度首都圏父母懇談会の受付の様子



法政大学後援会事務局

〒102-0073
東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学九段校舎 4F
TEL : 03-3264-9350
FAX : 03-3264-9367
E-mail : koenkai@hosei.ac.jp



後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



法政オレンジコミュニティ(HOC)が開催するイベントの一つ、卒業生異業種・同業種交流会



校友会の公式アプリは電子会員証を表示させることができるため、各種サービスを受けるのに便利です。ぜひ上のQRコードからダウンロードしてご利用ください。学生も利用可能です(優待サービスなどは卒業生会員限定)



校友会では2021年から学生アルバイトを受け入れています。今回はその声をお届けします。

学生アルバイト 坂井実紅さん(社会学部4年)

校友会は、学生にとっても意味のある組織です。ウェブサイトやアプリで発信される情報の中でも、特に卒業生が経営するお店を掲載した「法政オレンジMAP」は学生でも楽しめます。友人に紹介したところ、「法政の卒業生って本当にあちこちで活躍してるね」と驚いていました。また、コロナ禍でイベントがオンライン開催となり、参加しやすくなっています。学生のうちに、さまざまな領域で活躍する卒業生の話を聞いておくことは、今後の大きな糧となるはずです。

※2014年度以降は卒業と同時に終身会員となり、5年間は卒業年度ごとの「年度同期会」に所属(パートナー組織の活動にも参加可能)

法政の卒業生ネットワーク「校友会」の取り組み

卒業生の会員で構成される法政大学校友会は、世代・地域を超えて卒業生が集い、卒業後も「法政の一員であり続けること」を実感できる場です。全国各地・海外の地域支部に加え、学部・付属校同窓会、職域や体育会・サークルなどの卒業生団体(パートナー組織)もあり、それぞれ活発に活動しています。校友会は例年、次の事業を実施し、卒業生との交流を図っています。

生が集い、オール法政ゴルフ大会
「キャリア支援・カルチャー活動・スポーツ交流事業」公開講演会、音楽団体派遣、スポーツイベント後援など
「広報事業」校友会ウェブサイトと各種SNSの運営、校友会報「ORANGE JOURNAL」年2回発行

● 法政オレンジコミュニティ(HOC) 20〜30代の卒業生に向けた、仕事や趣味に生かせる情報発信やイベント開催
● 「校友会クラブオフ」の提供 全国20万以上の飲食店・映画館・宿泊施設などの割引・優待サービス「校友会クラブオフ」を提供。同伴者も対象
● 公式アプリの運用 電子会員証を搭載。イベント情報や校友会報の閲覧、卒業生のお店紹介「法政オレンジMAP」の店舗検索など

【近年の注目コンテンツ】

近年は、「すべての世代・地域につながる校友会」をスローガンに、法政ネットワークを拡大するため次のような活動



HOSEI ミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

沖縄を知り、考え、つながる 法政大学沖縄文化研究所 創立50周年記念展示

沖縄はかつて、「琉球王国」という一つの国でした。1879年に日本に併合されて沖縄県となりましたが、第2次世界大戦中に米軍の占領を受け、戦後は1951年に締結されたサンフランシスコ講和条約によって、今度は米国の統治下に置かれました。沖縄の住民は権利が守られない生活を強いられ、日本への「復帰」を望む声が高まりましたが、「本土」側の関心は必ずしも高くありませんでした。

このような状況を憂慮し、市民の立場から沖縄の問題を広く世間の人々に訴えようと、英文学者の中野好夫が私財をなげうって開設したのが「沖縄資料センター」です。同センターでは、全国各地の新聞から沖縄に関する記事を集めてスクラップしたり、当時、本土からの渡航にもパスポートが必要だった沖縄現地に赴いて資料を収集したりして、学生や市民にそれらを活用した学習の場を提供していました。

1972年に沖縄の施政権が日本に返還されることになり、沖縄資料センターが収集した大量の資料が本学へ無償で移管されました。これを契機に、琉球の領域であった鹿児島県奄美群島から沖縄県先島諸島までを対象範囲として、文化・社会に関する研究活動を行う機関として「法政大学沖縄文化研究所」が設立されたのです。

この研究所は、かつて社会学部と工学部が入っていた港区の麻布校舎に置かれ、初代所長には当時の中村哲総長が就任しました。1981年に市ヶ谷キャンパスの第一校舎へと移り、その後ボアソナード・タワー21階に移転し現在に至っています。

HOSEIミュージアムでは、沖縄文化研究所創立50周年を記念してテーマ展示を3カ所で開催し、ここでは紹介できなかった所蔵史料を含め、沖縄文化研究所のこれまでの歩みを紹介します。



- 1 英文学者の中野好夫(1903~1985年)。1960年に沖縄資料センターを設立し、沖縄を知るための資料収集と情報発信に取り組んだ
- 2 麻布校舎には、沖縄文化研究所を含め各研究所および法政大学出版局の看板が掲げられていた
- 3 島常賀作の特大大シーサー。シーサーは、沖縄で古くから屋根などに魔除けとして置かれてきた



本学航空部がモデルの一部となる アニメ映画『ブルーサーマル』が公開

本学航空部出身の小沢かなさん(文学部日本文学卒業)が原作者である漫画『ブルーサーマル』(新潮社)がアニメ映画化され、3月4日(金)から劇場公開されました。

同作品は、埼玉県熊谷市にある妻沼滑空場を舞台に、大学の航空部を描いた作品。「グライダー」と運命的な出会いをした主人公が、次第に航空部の魅力に引き込まれていくという内容になっています。本学航空部がモデルの一部となっていることから、アニメ制作にあたって取材協力もしています。



©2022「ブルーサーマル」製作委員会



社会学部青木貞茂教授ゼミの学生が 「第3回TOHOKU LOVE GAKUSEI MOVIE CONTEST」でグランプリ& オーディエンス賞を受賞

東北電力株式会社が主催する学生ムービーコンテスト「第3回 TOHOKU LOVE GAKUSEI MOVIE CONTEST」が開催されました。「郷土愛」「話題性」「創造性」を審査基準に、全国の学生から動画コンテンツを募集した中で、青木貞茂教授ゼミの学生がムービー部門「WebCMの部(クラスB※)」にて「グランプリ&オーディエンス賞(一般投票の最多得票作品)」を受賞しました。

受賞作品は「ホクホク東北つながる地域」と題したオンラインCMで、「スマート社会化によって、より便利・豊かになった未来の東北の暮らし」を表現しています。

※クラスB: 高等専門学校生・専門学校生・大学生・大学院生などを対象としたクラス



北京2022オリンピック競技大会 における本学関係者の活躍

2月4日(金)～20日(日)に開催された北京2022オリンピック競技大会に、本学在学学生および出身者から5人の選手と監督が参加しました。

スノーボードの岩淵麗奈選手(スポーツ健康学部3年)は2月6日(日)のスロープスタイルで5位入賞、2月15日(火)のビッグエアでは4位入賞を果たしました。

鈴木世奈選手、床亜矢可選手、床泰留可選手(いずれもスポーツ健康学部卒業)を擁したアイスホッケー女子(スマイルジャパン)は決勝トーナメントに初進出。新たな歴史を刻みました。

アイスダンスでは小松原美里選手(通教文学部出身)がリズムダンスで印象的な演技を披露。フィギュアスケートでは、本学スケート部フィギュアスケート部門の竹内洋輔監督(文学部卒業)が日本代表監督として、日本フィギュア史上初の団体種目銅メダル獲得に大きく貢献しました。



岩淵麗奈選手(写真提供:本人)



「地域交流DAY 2021」を開催しました

2月20日(日)、多摩地域交流センターに登録する学生プロジェクトの最終活動報告会である「地域交流DAY」を開催しました。

当日は、感染症対策を講じた上で対面で開催しました。第1部では各プロジェクトからの活動報告、第2部では多摩キャンパスおよび近隣地域の魅力を発信し、課題解決に向けて何をすべきか、参加者全員(学生・教職員・来場者)で考えました。法政大学と近隣地域の交流を図り、「多摩地域交流センター」の取り組みを知ってもらう良い機会となりました。



SDGsセミナー「伝わる文書から始めるSDGs」を開催しました

法政大学SDGs+プロジェクトは3月9日(水)、SDGsセミナー「伝わる文書から始めるSDGs」を開催しました。このイベントは、私たちが日常的に目にしたり、使用したりしている「文字」を、人に伝わりやすい「情報」として活用することを考えるオンラインセミナーです。

DTP(デスクトップ・パブリッシング)フォントなどの開発を手掛ける株式会社モリサワの山浦聡氏を講師に迎え、高齢者にも見やすい文字、多くの人に情報が伝わりやすくする方法など、文字情報を発信する際に気を付けたいことを学びました。



理工学研究科修了生が 電気学会静止器・回転機合同研究会で 「産業応用部門優秀論文発表賞」を受賞

理工学研究科電気電子工学専攻修了生の山下祐輝さんが電気学会静止器・回転機合同研究会で、「産業応用部門優秀論文発表賞」を受賞いたしました。

受賞論文は『永久磁石磁化方向の変化を考慮したマルチマテリアルトポロジ最適化手法によるIPMモータの高トルク・低鉄損構造の導出』(2020年1月24日発表済)です。



車載カメラを用いた道路行政の サービス向上と効率化に向けた、 産学官の共同研究契約を締結

本学は、株式会社ユビテル、静岡市と2022年2月から2023年3月にかけて産学官で共同研究を行う契約を締結いたしました。

この研究は、車載カメラ(ドライブレコーダー)から取得可能な動画や位置情報データを用いて、舗装劣化状況や渋滞状況などを分析し、業務の効率化やサービス向上へと活用する取り組みです。研究者としてデザイン工学部都市環境デザイン工学科の今井龍一教授が加わり、人工知能(AI)分析により舗装劣化状況の評価を抽出しています。



法政大学・明治大学・関西大学 三大学 連携事業シンポジウム「これからの大学 のあるべき姿」をオンライン開催

本学は、明治大学、関西大学とお互いの教育研究活動の一層の充実と質の向上を図り、学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とした三大学連携協力協定を締結しています。

この活動の一環として、3月12日(土)に連携事業シンポジウム「これからの大学のあるべき姿—新型コロナウイルス感染症への対応で見えた課題と今後の展望—」をオンラインにて開催。新型コロナウイルス感染症への対応の中で見えた課題と今後の展望について各大学の対応報告を行い、これからの大学のあるべき姿について議論を深めました。



「HAPPY VALENTINE2022 法政大学×ペイラー大学」を開催



市ヶ谷ボランティアセンターの学生スタッフ(VSP)は2020年10月より、本学協定校であるペイラー大学(米国)で日本語を学んでいる学生への日本語ボランティアを行っています。

2月11日(金)には「HAPPY VALENTINE2022」と題した、オンライン交流を開催。日米のバレンタイン事情をテーマに、気軽なおしゃべりを通じて国際交流の機会を楽しみ、お互いの国の文化を理解し合いました。



広報誌『HOSEI』 読者アンケートのお願い

広報誌『HOSEI』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。現在、広報誌『HOSEI』に関するアンケートを実施しています。皆さまから頂戴したご意見は、今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。アンケートへのご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アンケート回答締め切り
2022年5月9日(月)



アンケート
回答フォーム



2022年度の学年暦を公開しています

2022年度の授業期間、試験期間、休業期間、祝日の授業実施予定、入学式、学位授与式の日程をまとめた学年暦を公開しています。



学年暦



多摩キャンパス 路線バス割安定期券・ 回数券の販売

多摩キャンパスの鉄道最寄り駅とキャンパス間の路線バス定期券・回数券は、大学が運賃補助を行っています。通常のバス料金価格よりも割安な本学学生専用定期券と回数券を、多摩キャンパス内の法政大学生生活協同組合店舗(総合棟地下1階生協タマエもん店)で販売しています。ぜひご利用ください。



多摩路線
バス定期券



2022年度の事業計画書、 予算書を公開

2022年度の事業計画書および予算書を公開しています。



事業計画書、
予算書

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



Butoh入門 肉体を翻訳する

踊りとは、ダンスとは、世界中で「Butoh」と呼ばれているものとは何なのか。「言葉では表現できない」とされるButohをあえて言葉で立体的に捉えと、何が見えてくるのか。肉体を駆使する言語としての舞踏は、どのような言葉から成り立つのか。漠然と「舞踏とは何だろう」と思っている人にも、研究者にも最適な書。

大野のべルト 他1名 編著
国際文化学部国際文化学科 准教授
 出版社：文学通信
 発 行：2021年12月



ポストマスツーリズムの 地域観光政策 新型コロナ危機以降の 観光まちづくりの再生へ向けて

マスツーリズム（観光の大衆化）以降、観光は自らが持つ暴力性や非対称的な人と人との交流を軽減または解消する在り方を探ってきた。新型コロナウイルス感染症の大流行は、その流れを加速させるのか――。事例から模索した新しい観光の理論、地域観光政策が幅広く語られた書。

上山 肇・須藤 廣・増淵敏之 編著
大学院政策創造研究科 教授
 出版社：公人の友社
 発 行：2021年8月



すばらしき アカデミックワールド オモシロ論文ではじめる心理学研究

人間観察から発生した素朴な疑問を大真面目に追求した「オモシロ論文」を厳選して紹介。教科書には載らないような奇異な研究を通じて学問本来の面白さを伝えつつ、各論文の信頼性や再現性、関連研究を解説する。

越智 啓太 著
文学部心理学科 教授
 出版社：北大路書房
 発 行：2021年12月



ソーシャルプロブレム入門

社会保障、労働、家族、メンタル、差別、消費者問題などをテーマに、数多の社会問題への対応策を、空間と時間のモデルによる分析・検討を踏まえて多角的に考察。「フロントストーリー」から「問題の所在」を分析しながら、「政策的対応に向けたヒント」を考える。

長沼 建一郎 著
社会学部社会政策科学学科 教授
 出版社：信山社
 発 行：2021年9月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 4月号

令和4年4月20日発行
 第49巻第3号（通巻730号）

発行 法政大学 総長室 広報課
 〒102-8160
 東京都千代田区富士見2-17-1
 TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



法政大学生生活協同組合書籍部より

<市ヶ谷キャンパス>

「読書マラソン」に参加してみませんか

大学生協では、教科書の販売は当然ながら、書籍の販売を通して皆さまの勉強研究活動をサポートします。オンライン書籍注文サイトをご利用いただければ、店頭にない商品を取り寄せることも可能です。組合員割引も適用されるので、お気軽にご利用ください。

また、さまざまな読書推進活動も行っています。その一つが「読書マラソン」です。本を1冊読むごとに1枚のPOPカード（感想文）を書くことで、その本の魅力を他の学生にも知ってもらおうという試みです。「大学4年間で本を100冊読もう!」というスローガンのもと、全国の大学生協が展開しています。在学中に読書の楽しさを実感していただければ幸いです。

（市ヶ谷購買書籍部）



大学生協オンライン
 書籍注文サイト



全国大学生協連
 読書のすすめ

■ Award

2 0 2 1 年 度

自 由 を 生 き 抜 く 実 践 知 大 賞 1

2021年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして11件がノミネート。

厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞、

オンライン投票による「よき師よき友が選ぶ実践知賞」の計6賞が選ばれました。

ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

進取の学び賞

リレー講義「高校生と考える＜COVID-19＞」

（実施団体：法政大学国際高等学校×法政大学）

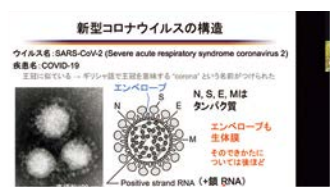


ノミネート理由・活動概要

法政大学国際高等学校(以下、国際高校)と法政大学との高大連携によるリレー講義「大学の学問にふれる」が選択科目として設置され、2021年度で4年目となります。この講義では、高校での学びを発展させ、毎回、法政大学の先生方を国際高校に招き、大学の学問がどのようなものか、多様化する現代社会の諸課題に対して学問はどのようにアプローチするのかを学んでいます。高校生への「学問への招待」としてはもちろん、各学部のガイダンスとしても機能しています。

2021年度は統一テーマを「高校生と考える＜COVID-19＞」とし、12学部の協力を得て、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)および感染症(COVID-19)が引き起こした現象や社会問題、関連する諸分野について、全15回(1回90分)のリレー講義を企画しました。各回のテーマは「総合大学」にふさわしく、分子生物学、数理統計学、政治学、社会学、経済学、観光学、歴史学、情報科学、文学、言語学と多岐にわたり、文理の枠を超えて、毎回スリリングな講義やワークショップが展開されました。

＜COVID-19＞をテーマに、高校生を対象とした、これだけ多様な分野の連続講義は他校に類を見ないものであり、全国の高校の中で最も先進的で意欲的な試みだと言えるでしょう。法政大学憲章が掲げる「社会の課題解決につながる実践知」に相応しい、時宜を得た教育実践でした。



ウェブ会議ツールを活用した講義の様子



対面形式での授業の様子



廣瀬克哉総長からの選定理由コメント

大学から紹介される「多様な視点と先見性を備えた研究」によって、受講生徒の知的好奇心が大いに刺激されるとともに、ワークショップによる掘り下げを契機として、自ら考えを深めることにつながったと思います。「この講義を通して、社会で起きている問題を理解したり、考えたりすることの大切さを学んだ」という受講生からのコメントが、この授業の価値を象徴しています。総合大学の付属校であることをフルに活かした、高大連携の可能性の大きさを示す実践として高く評価しました。

受賞者からの感想

諸行事が次々と中止・縮小されるなどCOVID-19は高校生の日常にも大きな影響を与えました。やがて進学する大学の「学問」がCOVID-19にどのように向き合い、新たな課題を日々発見し、分析・考察し、社会に貢献しているのかを学ぶことで、現実に体験している現象をとらえ直す機会にしてほしいと思い、リレー講義を企画しました。受講生徒のアンケートには、COVID-19という一つの事象を多面的に探究することの面白さ、「学問」の持つ可能性に対する新鮮な驚きが記されており、講義の目的が十分に達せられたことがうかがえて、うれしく思いました。（国際高等学校 杉山 剛）

今後の展望

「第6波」の到来で、一日あたりの感染者数・死者数ともに過去最多を記録しました。一方、現状の認識やリスク評価それ自体が党派的対立に転化され、「見たいものだけを見る(見たくないものは見ない)」ことによる「分断」がますます深まっているようにも感じます。

2022年度、国際高校ではリレー講義「高校生と考える＜COVID-19> part2」を展開中です。14学部の協力を得て、「高校生と」「考える」ことを通して、より良い共存関係を作るための「Withコロナを生き抜く実践知」が生み出されようとしています。COVID-19で失われた無数の経験と時間、生命を忘れないための精一杯の決意として、この講義を発展させていきたいと思っています。

「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。





法政大学を身近に感じてもらうため。

株式会社エイチ・ユーは、法政大学の子会社として、法政大学のブランドイメージを学生、卒業生のみならず、多くの人々へ広げていく役割を担っております。

その一つとして、毎日の生活で欠かすことのできない水や、普段から口にするお茶を法政大学プライベートブランドで開発し、大学キャンパスに設置された自動販売機や購買部で販売しております。

これらプライベートブランドを通じて、法政大学が持つブランドイメージをより身近に感じてもらえるよう努めております。



ほうせいすい 法政水

法政大学のPRを目的とした法政大学オリジナルのナチュラルミネラルウォーターを販売しております。

2010年5月の発売から11年、大学キャンパス内の自動販売機や売店などでの販売、オープンキャンパスや各種イベントなどでの配布によって、法政大学を身近に感じてもらえるツールとしての役割を担っています。

ほうせい茶

法政大学創立者ゆかりの地、大分県杵築市産の茶葉を使用した、法政大学オリジナルの緑茶飲料を販売しております。法政大学の創立者である金丸鉄（まがね）・伊藤修が大分県杵築市の出身であることから、「きつき茶生産組合」より杵築市産の茶葉の提供を受けているのが特徴です。お茶どころの多い九州において独特の甘みとコクを持つきつき茶を活かした味わいはもちろんのこと、その産地が法政大学とつながっているという歴史も感じられる商品となっております。



法政大学100%出資子会社

エイチ・ユー

ご注文はこちらから👉

